

豚熱の感染拡大防止

豚熱は、豚やイノシシに感染する伝染病で、中部地方を中心に感染地域が拡大しています。

人に感染することはありませんが、野生のイノシシがウイルスで汚染された肉製品を食べることなどで、感染・まん延につながる恐れがあります。ゴミの管理は徹底！

野生のイノシシが近づかないよう、エサとなる生ゴミ（特に肉製品）を屋外に放置せず、ゴミ箱のフタはきちんと閉めてください。

ウイルスを拡げない！

野山・森林・林などに出かけた時、靴の泥を落とすようにしてください。

死亡イノシシを見つけたら連絡を！

死亡したイノシシを発見した場合は、南部家畜保健衛生所（☎04-7092-2304）に連絡してください。

問 農林水産課
☎33-1071



豚熱感染拡大防止のためのお願い

県内で、豚熱に感染したイノシシが増えています。

イノシシが生息する山からウイルスを持ち帰ると、病気を広げる可能性があります。山菜採りなどで山から帰るときは、靴底や衣服、道具に付いた土をよく落とし、帰宅後は、しっかり洗ってください。タイヤ回りを中心に、洗車もお願いします。

養豚業を守るため、皆さんの協力ををお願いします。

問 農林振興部農林畜産課

宮城県北部地方振興事務所
☎22-1136

栗原地域事務所畜産振興部
☎22-2487



広報くりはら2022年5月（宮城県）

みなみぼうそう広報お知らせ版2021年11月（千葉県）

獣害対策

アレゾート

第11回

ブタ・イノシシの疫病

日野郡鳥獣被害対策協議会
川野 風花

問い合わせ 0859-72-1399

新型コロナウイルスが世間を騒がし続ける昨今、動物界でもある病気が流行していることをご存じでしょうか。その名も「CSF (Classical swine fever)」通称豚熱とは、ブタ・イノシシのみが罹る病気のことです。

日本では、明治20年に初めて感染個体が発見されましたが、ワクチン開発後の平成4年以降感染が確認されていませんでした。しかし、平成30年に養豚所内で感染したブタが発見され、現在も感染が拡大しています。

この豚熱、養豚所内のブタに感染が確認された場合、感染拡大防止のため発生農場内のブタは全頭処分となり、養豚業に大きな損害が出ることが大きな問題です。

感染拡大を防ぐ対策として、ブタのワクチン投与や感染の媒介者となる野生イノシシへのワクチン散布が感染個体確認地域とその隣

お知らせ

山林に立ち入る皆さんへ

豚熱ウイルス拡散防止にご協力を！

野生のイノシシの間で豚熱という病気が広がっています。人間には感染しませんが、豚に感染して養豚業に大きな被害を与えます。ウイルスを山林から持ち帰らないよう、次のことに協力ををお願いします。

- ①靴の泥は山で落として帰る
- ②残飯は持ち帰る
- ③養豚場には近寄らない
- ④いのししの死体を見つけたら県の家畜保健衛生所に連絡する

お問い合わせ先：県南家畜保健衛生所 ☎0197-(23)3531

広報りくぜんたかた2022年6月（岩手県）



お知らせ

○山林などに入山するときは

赤城山へアウトドアや紅葉狩り、キノコ狩りなどに行くときは野生の大型動物に厳重注意をしてください。この時期は、エサを求めて大型動物の動きが盛んに、7月にはクマによる2件の人身被害が発生しています。

また、県内の山林などで豚熱ウイルスに感染した野生イノシシが見つっています。豚熱ウイルスは物に付いて運ばれる恐れもあります。本市養豚農場への感染防止のために、山林に入山したときは、下山時に靴底や車のタイヤなどの泥をよく落とし、山林に付けた場合は触れずに、詳しい場所や頭数を農政課（☎027・2255・7105）へ連絡してください。

山林に入る方へのお願い
豚熱のまん延防止に向けて

県内の山林では、豚熱に感染した野生イノシシが確認されています。豚熱のウイルスは感染した野生イノシシのフンにも混ざっているため、靴底や車のタイヤなどに付着した土により運ばれる可能性があります。養豚場での感染を防ぐため、下山したら土をよく落としましょう

問 県畜産振興課
☎054(221)2743 図 054(273)1123



広報まえばし2021年9月（群馬県）

しずおか県民だより
2021年9月（静岡県）

町報こうふ2022年5月（鳥取県）

狩猟者のみなさまへ ～豚熱対策のお願い～

- ・イノシシで豚熱（旧称：豚コレラ）が発生すると、**その地域のイノシシ肉の利用が制限される可能性**があるなど、**狩猟にも大きな影響**があります。
- ・イノシシで豚熱の感染が「ない地域では**清浄性維持**」・「ある地域では**早期の清浄化**」のために！
- ・皆さん一人一人の、洗浄・消毒対応が重要です！！

ウイルスがいる場所

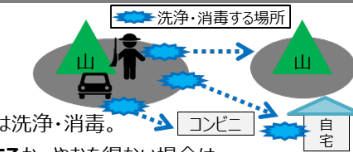
- 豚熱感染イノシシが確認された地域は特に注意が必要です。
- 感染したイノシシは糞便中などにウイルスを排出し、環境中（土壌、植物など）を汚染します。
- 環境中にウイルスがいる山に入ると、靴、車両のタイヤ、猟具等に付着して豚熱ウイルスを拡散させるおそれがあります。



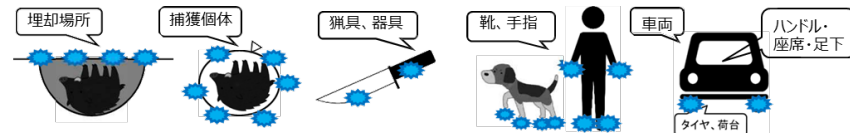
感染を広げないために必要な行動

いつ、何をすればいいの？

- 狩猟した後、大きく移動する際に「**洗浄**」・「**消毒**」を実施。
（具体的には、別の山へ移動するとき、山を降りるとき、移動途中でコンビニなどに立ち寄るときなど。）
- 自家消費用の解体時には、**使い捨て手袋、衛生的な着衣**（レインコート、防護服等）を使用。※レインコートは使い捨て又は洗浄・消毒。
- 解体後の内臓等は、**放置せず二重に袋につみ衛生的に処理するか**、やむを得ない場合は消毒等を適切に行い、公衆衛生の確保等に十分に配慮した上で適切に埋置する。
- 豚熱感染確認区域から、自家消費用を含む肉等を持ち出さない。
※「豚熱感染確認区域におけるジビエ利用の手引き」に従ってジビエ利用する場合は除く。
- 自宅に帰ってから特に念入りに「**洗浄**」・「**消毒**」を実施。次の猟場にウイルスを持ち込まない。



消毒のポイント（場所、ものなど）



洗浄・消毒の方法

- **靴の裏、タイヤ周り**
→ ブラシ・水などで土などの汚れを落とし、消毒する。
（ウイルスは肉や血液だけではなく、糞尿、唾液等が混じっている土などにも含まれている可能性があります。靴裏やタイヤの溝の土などをブラシ等を使いながら逆性石けん液などで洗い流し、確実に洗浄・消毒します。）
- **器具（ナイフなど）**
→ ブラシ・水などで血液などの汚れを落とし、消毒する。
- **消毒方法**
→ アルコールスプレーや逆性石けん液等を噴霧器、じょうろ等でかけて行います。
手指や衣服、猟具・ナイフなどで消毒薬のニオイや薬の残存が気になる場合はアルコールで。
※消毒薬は、薬局・ドラッグストア等で販売されています。



※事業等で、高リスクな場所を複数訪問する場合等での衛生対策は自治体担当部局の指示に従ってください。
※死亡イノシシ発見時は、接触を避け、自治体で検査等を行う可能性があることから、各自治体へ連絡してください。

家きんにおけるHPAI発生数の昨シーズンとの比較

	2021/2022シーズン (2022年8月29日時点)		2020/2021シーズン (2020年10月～2021年9月)	
		うち7月以降の発生数		うち7月以降の発生数
フランス	1416	(3)	508	(2)
英国	124	(9)	21	(0)
イタリア	317	(0)	3	(0)
ハンガリー	290	(0)	7	(0)
スペイン	31	(0)	0	(0)
アイルランド	6	(0)	1	(0)
米国	410	(31)	0	(0)
カナダ	112	(8)	0	(0)
ポーランド	95	(1)	357	(1)
ドイツ	78	(7)	231	(0)
韓国	47	(0)	109	(0)
日本	25	(0)	52	(0)

赤字: 昨シーズンより増加

青字: 昨シーズンより減少

橙字: 夏季(7月～9月)に発生あり

出典: OIE-WAHIS、FAO EMPRES-i、EFSAレポート、各国当局情報